

令和3年度 漢字の基礎・基本の徹底(2学期)～取り組みと課題～

2学期末の漢字50問テストの学校平均 87.8 点

1年生

【取り組み】

- ・漢字の宿題できめ細かに丸つけをしている。毎日のお直しはクラスの半分ぐらいはしているが、まだ習熟していないことがよく分かった。10月の大テストの方が25問中の25問の出題だったので成績は良かった。

【課題】

- ・漢字そのものを間違えているというよりは、「とめ」「はね」「はらい」や、形・点の向きなどの間違いが多かったです。
- ・「水」の漢字(2画目・3画目を1画目にくっつけるか・くっつけないか)、「見える」が「見る」になっている間違い
- ・「先」の漢字が正しく書けない。

2年生

【取り組み】

- ・出題範囲の漢字が出てくるプリントを作って練習⇒直しを一度した。
- ・そのあとはテストの日を知らせて、自分で勉強するように伝えました。

【課題】

- ・「午」や「半」の横棒の長さが上下逆になっていた。
- ・「内と外」を「家と外」と答えていた(同音異義語がつかめていない)。
- ・「食べる」が「食る」になっている間違い
- ・「鳴」と「海」のへんとつくりが離れすぎている
- ・「鳴」(口が日になっている)と「曜」(日が口になっている)
- ・「強」「弱」「姉」「妹」の似ている漢字に間違いが多かった
- ・「答える」「弱まる」の送り仮名間違い

3年生

【取り組み】

- ・漢字ドリルを2周する
- ・苦手な字のみ練習する
- ・漢字プリント練習、タブレットドリル

【課題】

- ・「坂」、人気「者」、「対」の間違いが多かった
- ・「人気者」⇒「人気物」になっていた(「もの」という音だけで判断して書いている。)
- ・全体的に1学期よりも前向きにコツコツと取り組んでいたが、まだまだ漢字の習得に苦手意識を持っている児童もいる。

4年生

【取り組み】

- ・1週間半の学習期間(宿題を1日1ページ以上)
- ・初日に班で学習ノートの相互評価
- ・点数が取れている子のノートを紹介
- ・工夫して学習している児童の取り組みを全体に知らせた⇒点数が伸びた児童がいた

- ・2学期は、2回の宿題を自分で覚えられるように工夫させ、やらされている宿題から自分のための宿題だと意識できる子が増えた。
- ・学習量が低い子には個別指導
- ・漢字を覚え、実際の文で使っていけるように、漢字ドリル①～⑳ごとに中間チェックテストを設け、読み・書きにプラスして、文づくりの欄を作成し、そこで文に使用する練習をおこなっている。
- ・1学期に比べ漢字を頑張りたいという子がとても増えているが、まだまだ練習不足の児童もいる。

【課題】

- ・「焼」「飯」の間違い
- ・「勇ましい」の漢字と送り仮名の間違い
- ・文章をすべて読まず、読みだけで漢字を書いて間違っていた
- ・「折れる」「積もる」「勇ましい」の送り仮名間違い
- ・「照」明器具、「風」景「画」の漢字間違い

5年生

【取り組み】

- ・けてぶれ学習を参考に自分で自分に合う学習方法を見つけながら漢字大テストに向けて学習をさせてきた。
- ・自主学は何度もやって取り組んでいた。自作テストの交流する機会を持った。意欲的に取り組んでいた。

【課題】

- ・普段の生活であまり使わない言葉の漢字の間違い「容易」「潔白」
- ・特段間違いの多い漢字はないが、送り仮名間違いは少しあるように感じる。
- ・「独」のけものへんがてへんになっている
- ・「複」の部首が「ころもへん」ではなく「しめすへん」になっている
- ・「再」来年が「昨」来年になっている

6年生

【取り組み】

- ・自学ノートなどで継続的に練習を重ねる児童が多かった

【課題】

- ・革新的の「革」が「確」になっている
- ・「域」の十画目がない

3学期に向けて

自分の勉強のやり方を見つけるために、友だちの自学ノートなどを紹介するなど、漢字テストに前向きに取り組めるように手立てをとってきたので、1学期よりも前向きに取り組めるようになってきた。しかし、苦手な子はしんどいので、引き続き「できなかったこと」ではなく、「できたこと」に目を向けさせ、「1学期よりもどれだけ伸びたか・伸びなかったか」の視点で、自分自身と戦えるように、声掛けをしていく必要がある。

また、文章をすべて読まずに「漢字の読み」だけで漢字を書いて間違えていることがあるので、文章を最後まで読むことや意味を考えることなども指導する必要がある。(漢字がどうしても思い出せずに、同じ読みで思いついた漢字を書いている可能性もあるが・・・)